

公表

事業所における自己評価総括表(保育所等訪問)

| | | | |
|----------------|-------------|------|----------------|
| ○事業所名 | 吉備の里ほけっと | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和7年 12月 1日 | | ～ 令和8年 1月 15日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 23名 | (回答者数) 13名 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和7年 12月 1日 | | ～ 令和7年 12月 26日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 10名 | (回答者数) 10名 |
| ○訪問先施設評価実施期間 | 令和7年 12月 1日 | | ～ 令和7年 12月 26日 |
| ○訪問先施設評価有効回答数 | (対象数) | 10施設 | (回答数) 9施設 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年 3月 6日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|--|
| 1 | 保護者の要望などがあれば所属学校・こども園を調整を行い、迅速に対応をするが、基本定期的に訪問を実施している。 | ・訪問を行った状況やその子の課題、成長したところなどを整理し保護者の方へ報告を行う。(lineを活用し迅速に報告が出来るよう心掛けている。) | ・所属学校・こども園の訪問の際に、対象児・訪問目的・面談時間を事前に先方にお伝えして、計画的に行うことで先生方への負担を軽減させる。 |
| 2 | 家庭、所属園・学校・療育の情報を共有することで、今何が必要かを話し合いながら、専門的視点を交えながら共有認識を図る。 | ・訪問者側が専門性を高めるために研修会への参加を行う。 ・訪問先で子どもたちと一緒に活動を行ったり、授業中参観をさせていただくことで子どもたちの様子や思いを汲み取る。 ・カンファの時間を設けて頂き、情報共有を行う。 | ・こどもたち個々の特性や思いに沿った支援が何かを訪問先に所属学校やこども園の先生へ伝え共有を図る。 |
| 3 | 困難ケースへの対応ができるよう関係機関と連携を深めておく。 | ・法人内の相談支援事業所と連携をとりながら、困難ケースについては関係機関が集結できるようにする。 ・親御さんのフォローができるように、常に相談が出来る関係性を築く。 | ・所属学校やこども園、家庭での様子を把握しながら、子どもの変化や気づきがあれば情報共有ができるよう取り組む。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|--|
| 1 | こども園や学校へ行き渋りがあったり、不登校の子どもたちへの対応について知識を持っておく。また、親御さんへの対応の在り方。 | ・所属学校への行き渋りがあった時の学校や保護者とのパイプ役として、専門知識や訪問者としての経験を身につけておく必要性を感じた。 | ・不登校への子ども達の気持ちを聞く場や学校の見学を行うなど経験値を高める。また、研修会や講演会などへ積極的に参加することで専門性を習得する。 |
| 2 | 支援計画書や教材不足である為、保護者への具体的な説明に欠ける。 | ・事業所訪問で得た良い点や課題などのように療育へ取り入れるかを療育者間でしっかり共有することで、保護者へより分かりやすく説明が出来ると思われる。 ・他の療育事業所から学びながら、アイテムを準備する。 | ・保護者の方に、分かりやすく丁寧に説明ができるよう、まめに記録を行い、支援内容を整理しながら説明をする。 |
| 3 | 専門性に欠ける。 | ・より専門的視点から分析が出来るよう知識を高める。 | ・定期的にケース検討を行い、専門性(言語聴覚士)側面からのアドバイスを頂きながら、知識を高めていく。 |